

## はじめに

僭越せんえつながら、ここに本邦初のこども食堂に関する白書を刊行します。僭越ながらと言う最大の理由は、本書の編著者がNPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ（以下、むすびえ）の関係者に限られているためです（一部コラムを除く）。本来白書は、こども食堂の運営者や学識者等を交えた編集委員会を組織し、各自の知見を重ね合わせ、意見を戦わせながらより総合的な観点から編集されていくべきものです。しかし本書には、むすびえの限られた知見のみが反映されています。バイアスもあるでしょう。本書の限界は明らかです。

それにもかかわらず刊行に踏み切るのは、前述のような本来あるべき形がとれなかったことそのものによります。こども食堂はまだ新しい現象で、現場も固まっていなければ政策化もされおらず、研究の蓄積もありません。本来あるべき形を作ろうとすれば3年5年を待つ必要があります。しかし私たちは、仮に不完全でも「今できること」を選択しました。それがこども食堂の精神にかなう選択だと考えたためです。こども食堂は、準備万端整えて始めるものではありません。ボランティアだし、何人来るかわからないし、わからないことだらけのなかで、それでも「今できること」を選び取った全国の人々の積み重ねが4,000箇所という数字です。「今できることを、今やる」というこども食堂のマインド・スピリットに私たちも倣いました。

私たちは、こども食堂をこう定義しています。「『こども食堂』『地域食堂』『みんな食堂』等の名称にかかわらず、子どもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」。そしてこう形容しています。「子どもを真ん中に置いた多世代交流型の地域の居場所です」と。

「こども」と「食」は必須の要素ですが、逆に言えばそこに何を加味してもいい。高齢者がたくさんいてもいいし、学習支援があってもいい。実際、こども食堂には地域の人たちのたくさんの「好き」

や「得意」が持ち寄られています。料理が得意な人、話すのが好きな人、黙々と机を運んだりする裏方の好きな人、誰かと同じ空間を共有するのが好きな人、一芸のある人……。人々が自発的に（ボランティアに）関わり、それゆえに多種多様。そのため、私たちはこう言うてきました。自発性と多様性がこども食堂の生命線だ、と。

本書は、こども食堂の自発性と多様性を前提に、その上に何が花開いているか、なぜそのような場が広がっているのか、そこに社会の何が映し出されているのか、それを私たちの力の及ぶかぎりで見ようとする試みです。

本書は3章と補章で構成されています。

こども食堂の前史から成り立ち、基本的な性格を押さえた第1章は、いわば「過去」をめぐって書かれています。こども食堂は新しい現象ですが、そこで見られる営みは人類の歴史とともに古いとも言えます。その古さと新しさをつかまえようとしてきました。そこには「なぜ今、こども食堂？」という問いも必然的に入ってきますから、こども食堂の基本的性格と時代との関連を押さえることにもなっています。

第2章は、それに対して「現在」を記述しています。多種多様なこども食堂の現在を切り取ることは容易ではありません。本書では、国（農水省、内閣府）の調査から、こども食堂の大枠をとらえることを試みました。データ中心で決して十分とは言えませんが、各章末に配置されている個々のこども食堂コラム（Case File）を併せ読んでいただくことで、イメージを肉付けしていただければ幸いです。

そして第3章では「未来」を扱っています。過去・現在をふまえて、こども食堂がこれからどうなっていくのか、またどうなっていくのが望ましいのか。私たちは社会の当事者、実践者ですから、そのことを第三者的・傍観者的に語ることはできません。私たち自身がこども食堂の支援を通じてどのような地域と社会を

つくりたいのか、なぜそう考えるのか、そこにどのような意味と価値があると考えているのか、について記述しました。良くも悪くも、もっとも私たちの想いが乗っている章です。

本書は以上3章で構成される……はずでした。そこに新型コロナウイルス禍がやってきました。

執筆という観点だけで見れば、コロナ禍は当初プラスに働くように見えました。予定がほぼすべてキャンセルとなり、STAY HOMEで自宅にいる時間が増えたからです。しかしすぐに、そうではないとわかりました。こども食堂のみなさんがコロナ禍でもめげずに積極的に活動したことで、多くの人たちがそれに反応し、かえって注目度が高まったからです。オンライン会議も増え、自宅にいる時間は朝から晩までミーティングの時間となりました。

目まぐるしい日々でした。こども食堂の支援を通じてコロナ禍の今、社会に働きかけたいと思ってくれる企業・団体・個人のみなさんが増えるのはありがたく、すばらしいことですから、できるかぎり対応しました。結果、執筆は長く滞りました。そして2020年秋。落ち着いたとはとても言えませんが、それでも執筆をなんとか再開したときに、思いました。コロナ禍に触れずに本書の出版はありえない、と。それで加筆されたのが補章です。

言うまでもなく、私たちはまだコロナ禍の渦中にあり、終わったところから全体を見渡して振り返る作業（総括作業）はできません。それでも、コロナ禍でのこども食堂の活動とそれを通じて見えてきたものには本質的な意義と価値があると感じられました。危機のなかでこそ本質が見えてくる、という格言を実感する思いです。補章では、できるかぎりそれに触れました。

みなさんにとって、本書がこども食堂をより深く理解し、共感していただくための一助となることを願います。

著者

# もくじ

はじめに	1
------	---

## 第1章 こども食堂の誕生と歩み

1 こども食堂の「前史」	8
2 「こども食堂」誕生は2012年	12
[図表] こども食堂の数の伸び	17
3 インフラ感が出てきた…	18
[図表] 児童館とこども食堂	19
こども食堂を知っている人の割合	21
こども食堂に行ってみみたい子どもの割合	21
こども食堂の認識	22
4 地域づくり、子どもの貧困対策が2つの柱	24
[図表] こども食堂の5つの機能	28
5 誕生の背景にあるもの	30
[図表] SDGsの17の国際目標	33
こども食堂のこれまで	37

Column 子どもの貧困対策としての食の支援 38

### Case File

1 インクルこども食堂 40   2 せんだいこども食堂 41   3 だんだんワンコインこども食堂 42   4 椎名町こども食堂 43   5 放課後キッチン・ごろごろ 44   6 こども食堂青空 45

## 第2章 データで見る「こども食堂のいま」

1 充足率17.3%、のべ160万人が参加	48
[図表] 都道府県別こども食堂の数	49
都道府県別こども食堂充足率	51
2 多様な主体が運営	54
[図表] こども食堂の活動地域とその範囲	54
代表者・主な担い手の経験の内容	(現在主として実施している活動別・抜粋) 55
主な活動目的として意識していること	56
運営団体の組織形態	57
主に食の支援を行う団体の運営スタッフ・ボランティアの人数	58
3 運営費用は寄付や会費に負うところが多い	60
[図表] こども食堂の1年間の運営費	61
こども食堂の開催頻度別1年間の運営費	61
主に食の支援を行う団体の運営費調達手段	63
こども食堂	

の助成制度の活用状況 63   こども食堂の開催会場 65

## 4 食事の提供以外の活動あれこれ

[図表] こども食堂で行っている食堂以外の活動 66   子どもの貧困対策に取り組む団体の活動の重なり 67   子どもの食に関する体験活動や、食に関する知識を深めることにつながる取り組み 69

## 5 こども食堂支援の広がり

[図表] こども食堂が連携している機関・団体・個人 71   こども食堂の連携先と連携内容 72   参加者を紹介してもらった経験、他の支援機関につなげた経験 74   運営にあたり感じている課題 75   国による「子供の居場所づくり」に対する財政支援 76   地方公共団体による「子供の居場所づくり」を支援する施策数 77

Column こども食堂に関わる数字 59   1食の料金設定 62   アンケートからわかるこども食堂の平均的なプロフィール 64   貧困状態にある子どもと家族に不足しているもの 68

### Case File

7 おびひろこども食堂 78   8 昭和こども食堂 79   9 こどもカフェHug 80  
10 とんだただいま食堂 81   11 おのみなとこども食堂 82   12 みんなや食堂 83  
13 森の玉里こども食堂 84

## 第3章 これからのこども食堂

### 1 「小学校区に1つ」をめざす

[図表] 山口県知事の「こども食堂応援宣言」 91   地域ネットワークの組織化状況 92

### 2 質の確保のために

[図表] こども食堂という木の“根”と“枝” 95

### 3 さらに多様な運営主体による活動へ

### 4 子どもの主体性確保に向けて

### 5 誰もとりこぼさない社会へ

### 6 持続可能性のために

[図表] こども食堂と学童保育の強み・弱み 118

Column 「こども食堂実践者の会」結成 100   企業の社会的活動の変遷 104

### Case File

14 ファミマこども食堂 126   15 市役所すなばこども食堂 127   16 ぐらんま子ど

も食堂 128 17 いきいき安心移動こども食堂 129 18 おおのじょうこども食堂み  
ずほまち 130 19 くれかきっちゃん 131 20 あそぶガッコ食堂 132

## 補章 コロナ禍とこども食堂

<b>1 コロナ禍の性質と生活への影響、現在の状況</b> .....	134
[図表] コロナ禍のフェーズごとの3サイクルの様相	135
<b>2 こども食堂と地域の居場所へのインパクト</b> .....	138
<b>3 全国アンケートの結果から</b> .....	142
[図表] こども食堂の開催状況(4月) 143      こども食堂の開催状況(6月と9月) 144	
こども食堂での困りごと(4月) 147      いま、必要な支援(4月) 147      こ	
ども食堂での困りごと(6月と9月) 149      一堂に会してのこども食堂の再開	
時期(6月と9月) 149	
<b>4 確認できたこども食堂の本質的価値</b> .....	150
[図表] むすびえのめざす校区のイメージ——あっちにもこっちにもこども食堂	159
<b>Column</b> こども食堂運営者が感じたコロナ禍の子どもたちへのインパクト	140

## 始めるため、続けるため、応援するために役立つ情報

<b>始めてみる</b> こども食堂のつくり方講座——基本の「キ」 .....	162
[資料] こども食堂への支援を行う自治体の施策例(都道府県による民間団	
体向けのもの) 164	
各種手引き書 .....	165
安全・安心のための2つの「ホケン」 .....	166
[資料] 食品衛生責任者の資格を得るには 166      加入を検討するとい	
保険(共済を含む) 167	
<b>応援する・手伝う</b> 支援の方法あれこれ——個人の場合、企業・団体の場合 .....	168
<b>探してみる</b> こども食堂の地域ネットワーク団体 .....	170
 おわりに .....	172
参考文献 .....	174

# 第1章 こども食堂の 誕生と歩み

2010年代半ばから、新聞にこども食堂の記事が載るよう  
になりました。そして今、誰が音頭をとって広げたわけでも  
ないのに、こども食堂は全国各地に存在しています。

背景には、2000年代後半から注目され始めた子どもの貧  
困問題がありますが、それにしても、市井の人々のボランタリ  
ーな活動が、ここまで発展したのはなぜなのでしょう。こ  
ども食堂の誕生と歩みを振り返ってみます。



## 運営費用は寄付や会費に負うところが多い

### 運営費は30万円未満のところが多い

農水省調査によると、年間の運営費は10万円から30万円未満までというところが37.6%で最多、さらに少ないところも含め、7割方が30万円未満となっています。内閣府調査でも、「食の支援」を主に行う団体（n=141）の1年間の事業費は、10万円以上30万円未満が27.7%で最多という結果でした。ただし、次いで多いのは100万円以上300万円未満で18.4%、次いで50万円以上100万円未満の12.1%でした。

運営費を開催頻度別に見てみると（農水省調査）、開催頻度が高くなると運営費も増えて、ほぼ毎日開催する団体では100万円以上というところが3割にのぼります。

### 主に寄付、会費によって賄っている

では、その運営費はどのように調達しているのでしょうか。

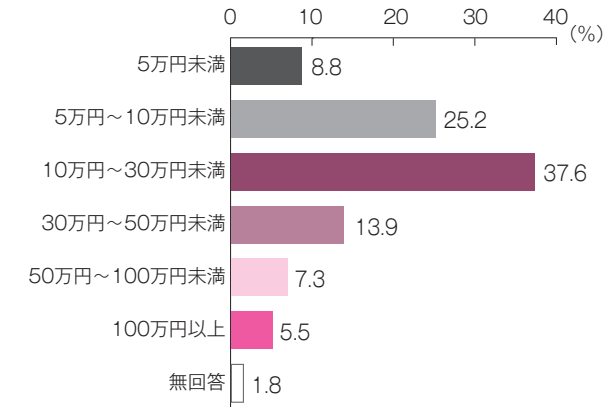
内閣府調査によると、主に「食の支援」を活動内容とする団体では、寄付がもっとも多く79.4%、次いで会費の56.7%、国・自治体の補助・助成金30.5%となっています。

### 助成制度を活用しつつ、持ち出しをあてた経験あり

農水省調査によれば、助成制度を活用している運営者は68.6%、活用していない運営者は30.3%です。一方で、過去1年間に運営に持ち出しをあてた経験も58.0%がしています。

### 子ども食堂の1年間の運営費

(n=274)

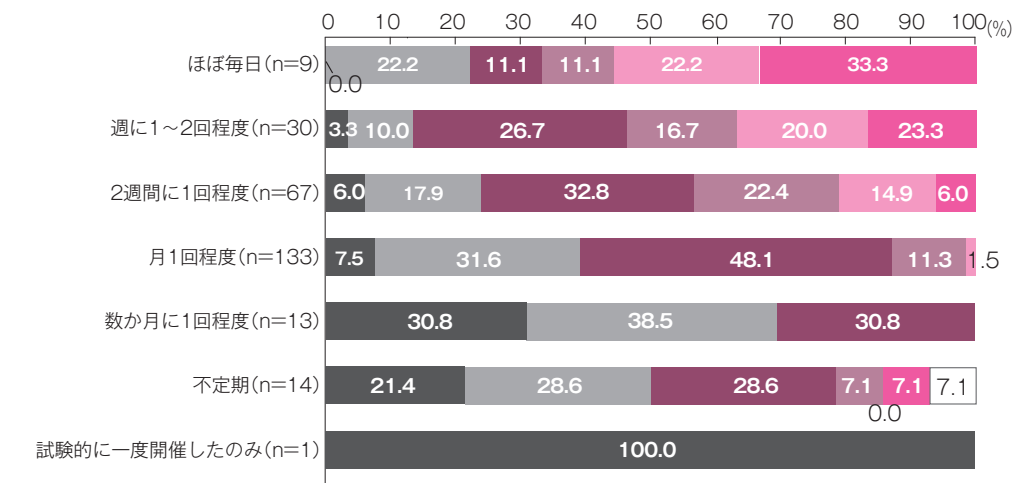


出典：農林水産省「子供食堂向けアンケート調査」(2017年度)

### 子ども食堂の開催頻度別1年間の運営費

■ 5万円未満 ■ 5万円~10万円未満 ■ 10万円~30万円未満  
 ■ 30万円~50万円未満 ■ 50万円~100万円未満 ■ 100万円以上 □ 無回答

(n=267) ※開催頻度について無回答の団体を除く



出典：農林水産省「子供食堂向けアンケート調査」(2017年度)



こども食堂の事業に対して助成している地方公共団体もありますが、その数は多くはありません。農水省調査によれば、助成制度を利用している場合でも、社会福祉協議会による助成制度\*1が29.6%と最多です。

\*1 多くの地区社会福祉協議会で、「開設助成金」「運営助成金」「推進補助金」などの名目で助成を行っている。

### 会場は自前もあるが公共施設などを借りることが多い

農水省調査によると、こども食堂を開催する場所は、団体所有の施設でという場合も27.7%ありますが、ほかは、公民館や児童館などの公共施設(39.1%)、他団体・個人等所有の施設を有償(21.9%)または無償(22.6%)で借りる場合が多いようです。

Column



### 1 食の料金設定

もらう? もらわない? もらうならいくら?

「金銭的に困っていて食事ができない子がいるのをなんとかしたい、それがいちばんの目的だから、無料で提供したい。でも、それだと引け目を感じさせる? あまり困っていない子まで大勢来てしまう?」「仮に300円もらうと、材料費はなんとか賄えるし、活動自体の継続も無理なくできそう。でも、その300円が本当に困っている家庭にはきついかもしれない……」

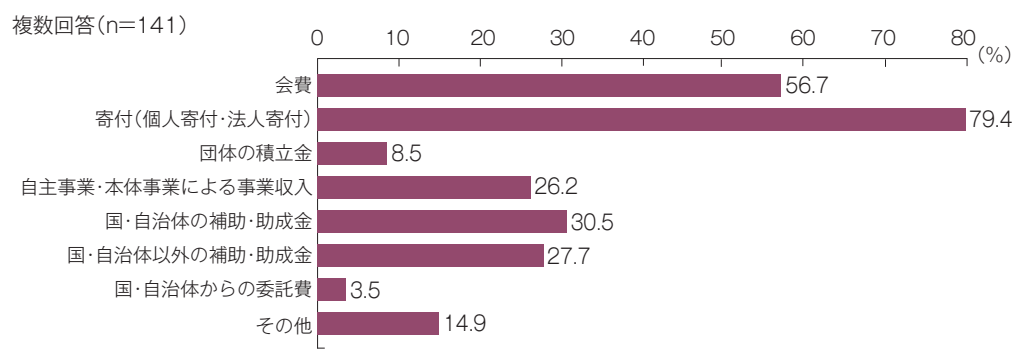
1食の食事代をもらうかもらわないか、もらうならいくらにするか、この問題にはどこも悩むようです。そのため、誰でも無料というところもあれば、子どもは無料だけど、大人(高校生以上などとするとところも)は300円なり500円をもらう、あるいは、親子一緒

で300円などとするとところもあります。子どもは無料で子どもと一緒に家族も無料という例も見られます。

また試行錯誤の末、子どもは1コイン、しかもコインなら何でもOKという方法にしたところもあります。また、料金は決めているけれど無料券を用意して必要な人に利用を勧める、そんな個別対応をすることも。

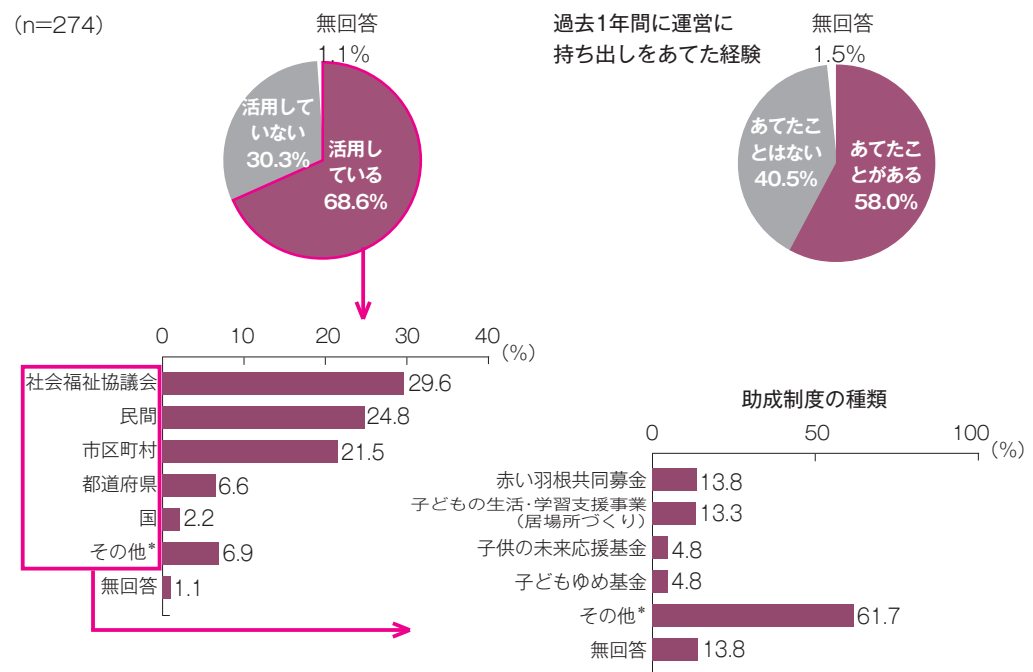
農林水産省の「子供食堂向けアンケート調査」(2017年度)によると、子どもの参加費を無料にしている団体が52.6%、大人の参加費が無料の団体も9.1%ありました。参加費が有料の場合の料金は、平均値で子ども134円・大人310円、中央値で子ども100円・大人300円でした。

### 主に食の支援を行う団体の運営費調達手段



出典：内閣府「子供の貧困に関する支援活動を行う団体に関する調査」(2018年度)

### こども食堂の助成制度の活用状況



\*「その他」の回答例：社会福祉協議会の地域福祉活動支援事業助成金、コープの市民活動助成金、市町村の補助金等

出典：農林水産省「子供食堂向けアンケート調査」(2017年度)

### むすびえのアンケート調査でも…

全国こども食堂支援センター・むすびえが行った2020年9月の全国アンケートでも、運営費は月額1万円以下が20.5%、1～2万円が41.8%と、年ベースで「30万円未満」となるこども食堂が6割で、農水省調査と同様です。

他方、コロナ禍において行われている食材・弁当配布（フードパントリー\*<sup>2</sup>）の活動においては、一堂に会する形での居場所を開くことに比して数倍の費用がかかるという実態があり、小さな予算規模で「ないなら、ないなりに」運営してきたこども食堂を苦しめています。

また、安く借りていた公共施設がコロナ禍で貸し出し禁止・飲食禁止となっていて自前の場所を確保しなければなくなっていること、また、3密を避けるための人数制限・時間制限を行うために、より広い会場をより長く借りる必要のあるといった場所の問題も、お金の問

\*2 十分な食事をとることが難しい生活困窮者（家庭や個人）に無償で食料を配布するしくみのひとつで、対象者が向いて受け取る。パントリー（pantry）は食品を蓄える貯蔵庫のこと。

### Column



#### アンケートからわかるこども食堂の平均的なプロフィール 任意団体が月に1回程度、公共施設で平日の夕食を提供

農林水産省が2017年に実施した「子供食堂向けアンケート調査」（n=274）によると、次のような平均像が見えます。近年こども食堂が急激に増えて実数が桁違いなのでそのまま実像とは言えないのですが、初期の像として参考にしてください。

- 任意団体が公共施設を借りて
- 月に1回程度、平日の夕食または土日祝日の昼食を提供
- 1回あたり子ども11～20人、大人

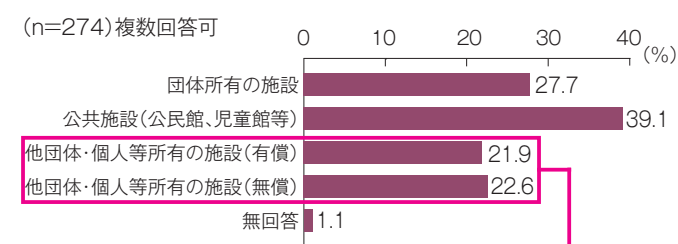
10人以下が参加（合わせても11～20人）

- 子どもは無料、大人は有料
- 子ども以外を含め誰でも参加可能
- スタッフは平均9.1人
- 1年間の運営費10万円～30万円未満
- 寄付や助成金以外の持ち出し経験ありが58.0%
- 社会福祉協議会のボランティア保険に加入

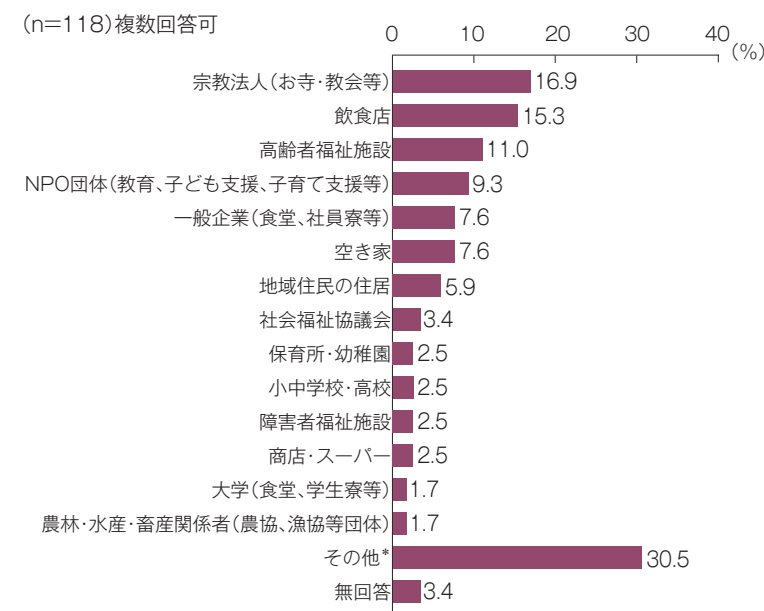
題に直結します。

コロナ禍では、かつてなく「資金が不足している」という声を聞くようになっていきます（コロナ禍の影響に関しては補章で詳述）。

### こども食堂の開催会場



#### 他団体・個人所有の施設を利用している場合の所有者



\*「その他」の回答例：民宿、団地の集会所等

出典：農林水産省「子供食堂向けアンケート調査」(2017年度)